

IV

せん妄

1 定義

せん妄は、本来精神医学の診断名として用いられており、その診断基準は *Diagnostic and Statistical Manual of Mental Disorders, 4th edition*（以下DSM-IV）による（*American Psychiatric Association 1994*）。注意力・意識清明度の低下、認知の変化、症状の急激な発生の3つを特徴とした症状とされている。緩和ケア領域では、明智らが、軽度ないし中等度の意識混濁に興奮や錯覚、幻覚・妄想などの認知障害を伴う特殊な意識障害と説明している（明智ら、2000）。我が国ではICD-10による診断基準や観察者の評価尺度である *Delirium Rating Scale*（DRS）日本語版が多用され、治療効果の判定には *Memorial Delirium Rating Scale*（MDAS）日本語版が用いられている（佐伯他、2001）。

2 メカニズム

せん妄の発症メカニズムは未だ解明されていないが、発症に関わる要因については、Lipowski（1990）によると、せん妄の要因は直接原因、誘発因子、準備因子の大きく3つに分けることができる。せん妄の直接原因には、薬物等の中毒または副作用などがあげられている。緩和ケアで用いられる頻度の高いステロイド剤、抗うつ剤、モルヒネなどは直接的原因として認識されている。皆川ら（1998）の報告によると、モルヒネの短期間増量、65歳以上の高齢者、腎機能障害のある事例でせん妄の発症が高い。モルヒネの場合、脳内の神経伝達物質の代謝障害、モルヒネの活性代謝物質の蓄積（Mercadante S, 1999）などが原因として考えられ、その対策としてオピオイドローテーションが試みられている（Mercadante S, 1999）。誘発因子としては環境の変化、睡眠リズムの障害、心理的な負担などがあげられている。脳血管障害の既往、痴呆などの基礎となる身体疾患は準備因子として分類される。

3 対応

直接的原因として考えられる薬剤について、疼痛マネジメントとの両立を考慮しながら適宜減量を図り、薬物療法によってせん妄の軽減を試みる一方で、看護は、誘発要因への対策に責任を持って取り組む。騒音、空気、空間など環境の整備、わかりやすく安心できる説明、安楽、安心を確保するケアの提供など、基本的な看護ケアを徹底して行う。せん妄が活動期にあるときは、転倒、転落の予防など、患者の安全に最も配慮する。

また、せん妄状態にある患者を間近にみて、家族は驚き落胆することもあるので、病状

を正確に説明して、患者への対応方法を具体的に教えておくと、心の準備ができて対応することができ、家族のケアへの不全感を軽減することができる。

資料：引用文献リスト

<資料1>

American Pain Society(1992).Principles of Analgesic Use in the Treatment of Acute Pain and Cancer Pain,National head quarters of the American Pain Society, Third Edition,2-3(E-2)

荒尾晴恵(2002).痛み,足利幸乃（編）,正しく知りたいナースのための消化器がん化学療法と看護,(p159-166)メディカ出版(E-1)

Gayle Giboney Page(1996).CHAPTER55Pain:Physiologic Aspects,CANCER NURSING A COMPREHENSIVE TEXTBOOK,W.B.SAUNDERS COMPANY,p1009-1016.(E-1)

がん末期医療に関するケアのマニュアル改訂委員会（2002）.がん緩和ケアに関するマニュアルーがん末期医療に関するケアのマニュアル改訂版ー,厚生労働省・日本医師会（監）,日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団(E-1)

後明郁男 a(2003).骨転移痛の治療,がん看護,8(3),205-208(E-3)

後明郁男 b(2003).発痛のメカニズムと治療,がん看護 8(1),15-20(E-3)

花岡一雄(1992).痛みの発生要因と対処法,武田文和（監）,Palliative care をめぐる最近の話題Ⅱ,(p33-37)メディカルレビュー社(E-1)

International Association for the Study of Pain(1979).Subcommittee on taxonomy of pain terms:A list with definitions and notes on usage.Pain,6,249-252.(E-2)

井上大輔,白土辰子(2002).がんの痛みの発生機序,田村恵子（編）,がん患者の症状マネジメント,(p32-38),学研(E-1)

池永昌之(2001).モルヒネの効きにくいがん性疼痛に対する鎮痛補助薬の使い方,日本薬剤師会雑誌,53,1825-1832(E-3)

柏木哲夫(1997).トータルケアとしての痛みのケア,メンタルケア 2 特集痛みの現場,痛みの思想「痛み」への総合的アプローチ,p10-11,星雲社.

柏木哲夫, 恒藤暁, 池永昌之, 大山直子, 新田美鈴(2001), 緩和ケアマニュアル, ターミナルケアマニュアル改訂第4版, 淀川キリスト病院ホスピス (編), 最新医学社(E-1)

McCaffery, Margo., Beebe, A.(1989)/依田和美, 柿川房子, 川田繁, 栗原幸江(1995). 痛みの看護マニュアル, 季羽倭文子 (監), メヂカルフレンド社. (E-1)

McCaffery, Margo.(1972)/中西睦子訳(1991).痛みをもつ患者の看護, Nursing Management of the Patient with Pain, 医学書院.(E-1)

McCaffery, Margo.(1995)/ホスピスケア研究会編(1992).第2章疼痛アセスメントにおけるナースの役割, 季羽倭文子 (監), ホスピスケアのデザイ Part II 疼痛と告知 (改訂第3版), 三輪書店.(E-1)

森脇克行, 弓削孟文(1992).骨転移と痛み, 武田文和 (監), Palliative care をめぐる最近の話題 II, (p65-70), メディカルレビュー社(E-1)

並木昭義(1998).痛みはどのように生ずるか, 花岡一雄 (監), 花岡一雄, 並木昭義, 小川節郎, 有田英子, 上西紀夫, 大内尉義 (編) 日本医師会生涯教育シリーズ疼痛コントロールのABC, 医学書院(E-1)

岡田美賀子, 内山真木子, 中村めぐみ, 神戸恵美子, 加藤佳子, 上田貴子, 黒田正子, 大和田哲郎, 川名典子, 太田博子, 廣川君代, 塩川満 (1999), がん疼痛マネジメントマニュアル, 聖路加国際病院看護部緩和ケア検討会症状マネジメントグループ (編), 医学書院(E-1)

岡田美賀子, 梅田恵, 桐山靖代(1999), 最新ナースによるナースのためのがん患者のペインマネジメント, Evidence-based Nursing Practice の探求, 日本看護協会出版会. (E-1)

大山直子, 恒藤暁(2001).がん患者の痛みの特徴, わかるできるがんの症状マネジメントII, ターミナルケア編集委員会 (編), ターミナルケア 10月増刊号, 2-5.(E-1)

Patrick, Wall.(2000). Pain: The science of suffering, Columbia University Press (E-1)

Saunders, C.(1984), The philosophy of terminal care, In The Management of Terminal Malignant Disease, C. Sanders, (p232-241), Arnold Publishers. (E-1)

佐藤英俊(2003), チームで取り組む全人的な痛み, がん看護, 8(3), 170-173. (E-3)

聖路加国際病院看護部緩和ケア検討会(1999),がん疼痛マネジメントマニュアル, 聖路加国際病院看護部緩和ケア検討会症状マネジメントグループ（編）,医学書院(E-1)

Twycross,Robert. Wilcock, Andrew .(2001).Symptom Management IN ADVANCED CANCER third edition,Radcliffe medical press.(E-1)

高宮有介(2003).がんの痛みのアセスメントの実際～医師の立場から～,がん看護,8(1),21-25(E-3)

武田文和,渡辺孝子(1996). がん患者の痛みのマネジメント,JJN スペシャル 51,医学書院(E-3)

上島悦子(2003).薬剤師からみたがんの痛みの緩和ケア,がん看護,8(2),109-114(E-3)

内布敦子、Larson.P.J. 河野文子、和泉成子、遠藤久美、岡野好恵、柴田秀子、沼田靖子、Carrieri-Kohlman.V.(1998). 別冊ナーシング・トュデイ⑩患者主体の症状マネジメントの概念と臨床応用、Larson.P.J.、内布敦子（編）、日本看護協会出版会（E-1）

WHO 専門委員会(1990)／武田文和（訳）(1995). がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケアーがん患者の生命へのよき支援のために一、WHO（編）、金原出版株式会社（E-1）

WHO 専門委員会（1986）／武田文和（訳）(1996) ,がんの痛みからの解放ーWHO 方式がん疼痛治療法ー第2版,WHO（編）,金原出版株式会社.（E-1）

横田敏勝,黒政一江,坂井靖子,三島幸子(2000).ナースのための痛みの知識（改訂第2版）,南江堂(E-1)

内田香織,田村恵子(2003).全人的な視点からのがんの痛みの緩和ケア,がん看護 8(2),93-97(E-3)

<資料2>

土井千春,志真泰夫,下山直人(2003).特集オピオイド製剤の選択・新しい展開,オピオイドローテーション・その定義と考え方,ターミナルケア,13(1),p5-10.(E-3)

Geoffery Hanks,Nathan I. Cherny,Marie Fallon(2004).Opioid analgesic therapy, Oxford Textbook of Palliative Medicine third edition,Derek Doyle,Geoffery Hanks,Nathan Cherny, Kenneth Calman(eds),Oxford Univercity Press,p316-341. (E-3)

がん末期医療に関するケアのマニュアル改訂委員会(2002).がん緩和ケアに関するマニュアルーがん末期医療に関するケアのマニュアル改訂版一,厚生労働省・日本医師会(監),日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団(E-1)

後明郁男,平塚良子,塚原悦子,佐藤健太郎,上島悦子,豊島博行,福田一郎,菅尾英木,岩田吉一,大谷卓弘,神野進,曾我文久,内藤正敏,清水信幸,横山重子,納所妙子,牧洋子(2003).がん終末期・難治性神経筋疾患進行期の症状コントロール増訂版,ターミナルケアにたずさわる人たちへ,後明郁男,平塚良子,佐藤健太郎,神野進(編),南山堂(E-1)

細川豊史(2003):特集癌性疼痛の薬物療法の実際,その他の鎮痛薬:フェンタニル、オキシコドン,総合臨床,52(8),2338-2341.(E-3)

平賀一陽、並木昭義、福井次矢、飯野京子、内富康介、小川節郎、喜多みどり、君島伊造、近藤仁、篠道弘、樽見葉子、恒藤暁、濱口恵子、松本真希、向山雄人、山室誠、渡辺昭彦、瀬戸山修(2002). Evidence-based Medicine に則った がん疼痛治療ガイドライン、日本緩和医療学会「がん疼痛治療ガイドライン」作成委員会(編)、真興交易医書出版部(PC)

堀泰祐、明神徹郎(2003). 特集モルヒネの副作用対策,便秘・排尿障害,総合臨床,52(8),p2416-2419.(E-3)

林章敏(2003). 鎮痛補助薬2)抗うつ薬、抗不安薬,総合臨床 52(8), 2363-2368 (E-3)

IndelicatoRA,PortenoyRK(2002):opioid rotation in the management of refractory cancer pain,J Clin Oncol,20,p348-352.(E-3)

伊藤美由紀,的場元弘,外須美夫(2001).E.モルヒネの副作用対策,わかるできるがんの症状マネジメントII,ターミナルケア10月増刊号,63-70(E-1)

加藤佳子,加藤滉(2003):特集癌性疼痛の薬物療法の実際,オピオイドローテーションー癌疼痛治療における役割一,総合臨床,52(8),2353-2357.(E-3)

柏木哲夫、恒藤暁、細井順、池永昌之(2000). ターミナルケアマニュアル 第3版、淀川キリスト教病院(編)、最新医学社(E-1)

木澤義之、吉津みさき、角田直枝(2002).第5章痛み以外の症状マネジメント3 消化器症状、悪心・嘔吐,NursingMook14 がん患者の症状マネジメント,田村恵子編,p106-109.(E-1)

Larson,p.,Halliburton,P.,Dijulio,J(1993)Nausea, vomiting, and retching.
InV.CarrieriKohlman,A.M.Lindsey,C.M.west,(Eds),PathophysiologicalPhenomena
in Nursing:Human Responses to Illness,p371-394(E-1)

Lipowski ZJ(1987):Delirium(acute confusional states).JAMA,258(13),p1789-1792.(E-2)
McCaffery Margo, Beebe A(1989)/依田和美、柿川房子、川田繁、栗原幸江(1995),痛みの看護
マニュアル,季羽倭文子（監）,メヂカルフレンド社(E-1)

Mercadante S(1999):Opioid rotation for cancer pain-rationale and clinical
aspects.Cancer,86,1856-1866.(E-3)

宮野早苗、小井戸啓一、中山綾乃、蔵品大、斉藤完治、加藤裕久、国枝卓(2003).特集モル
ヒネの副作用対策,嘔気・嘔吐, 総合臨牀,52(8),p2410-2415.(E-3)

真野徹(2003). 特集モルヒネの副作用対策,眠気、ふらつき、めまい 総合臨
牀,52(8),p2424-2427(E-3).

的場元弘(2003). がん疼痛治療のレシピ, 春秋社(E-1)

Nessa Coyle, Russell K. Portenoy(1996).Chapter57 Pharmacologic Management of
Cancer Pain,Cancer Nursing a comrehensive textbook second edition,Ruth
McCorkle,Maria Grant,Mariliyn Frank-Stromborg,Susan B.Baird,eds,W.B.SAUNDERS
COMPANY,p1035-1055. (E-3)

(財) 日本医薬情報センター (JAPIC) (2002).医療薬日本医薬品集 第25版,じほう(E-1)

中村めぐみ、岡田美賀子、水口公信、内山真木子、神戸恵美子、加藤佳子、上田貴子、黒
田正子、大和田哲郎、川名典子、太田博子、廣川君代、塩川満(1999). がん疼痛マネジメン
トマニュアル、聖路加国際病院看護部緩和ケア検討会症状マネジメントグループ（編）、医
学書院（E-1）

岡田美賀子、梅田恵、桐山靖代(2002). 別冊ナーシング・トゥデイ⑩ナースによるナースの
ための最新がん患者のペインマネジメントーEvidence-based Nursing Practice の探求、日
本看護協会出版会（E-1）

Payne, Rich., Gilbert R. Gonzales(2004). The management of pain Pathophysiology of pain in cancer and other terminal diseases, Oxford Textbook of Palliative Medicine third edition, Derek Doyle, Geoffery Hanks, Nathan Cherny, Kenneth Calman(eds), Oxford University Press, p288-298. (E-3)

Twycross, Robert. (1995). Symptom Management in advanced cancer, 43, Radcliffe Medical Press, Oxford (E-1)

高宮有介(2003). 特集モルヒネの副作用対策, せん妄, 総合臨床, 52(8). p2420-2423 (E-3)

高宮有介(2003). 新しいオピオイド製剤, がん看護 8(3) (E-3)

表圭一(1998). 薬物療法, 花岡一雄(監), 花岡一雄, 並木昭義, 小川節郎, 有田英子, 上西紀夫, 大内尉義(編) 日本医師会生涯教育シリーズ疼痛コントロールのABC, 医学書院 (E-1)

上島悦子(2003). レスキューの必要性和服薬指導, がん看護 8(3), 201-204 (E-3)

梅田恵, 樋口比登美(2003). Q & Aでよくわかる! がん性疼痛ケア, 照林社 (E-1)

WHO, Geneva (1990). Cancer pain relief and palliative care: Report of a WHO expert committee. WHO Technical Report Series 804, 21-22 (E-1)

WHO 専門委員会(1990)/武田文和(訳)(1995). がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア—がん患者の生命へのよき支援のために—, WHO(編), 金原出版株式会社 (E-1)

WHO 専門委員会(1996)/武田文和(訳)(1998). がんの痛みからの解放—WHO方式がん疼痛治療法—, WHO(編), 金原出版株式会社 (E-1)

横田敏勝, 黒政一江, 坂井靖子, 三島幸子(2000). ナースのための痛みの知識 (改訂第2版), 南江堂 (E-1)

<資料3>

American Psychiatric Association (1994). Diagnostic and statistical manual of mental disorders: DSM-IV. 4th ed, Washington, D.C.: American Psychiatric Association (E-1)

明智龍男, 中野智仁, 内富庸介(2000). 終末期ケア, 臨床精神医学, 増刊号, 327-379 (E-3)

Cherny N, Ripamonti C, Pereira J, et al (2001) Strategies to manage the adverse effects of oral morphine: an evidence-based report. J Clinical Oncology 19 2542-2554 (E-2)

後明郁男,平塚良子,塚原悦子,佐藤健太郎,上島悦子,豊島博行,福田一郎,菅尾英木,岩田吉一,大谷卓弘,神野進,曾我文久,内藤正敏,清水信幸,横山重子,納所妙子,牧洋子(2003).がん終末期・難治性神経筋疾患進行期の症状コントロール増訂版,ターミナルケアにたずさわる人たちへ,後明郁男,平塚良子,佐藤健太郎,神野進(編),南山堂(E-1)

平賀一陽,並木昭義,福井次矢,飯野京子,内富康介,小川節郎,喜多みどり,君島伊造,近藤仁,篠道弘,樽見葉子,恒藤暁,濱口恵子,松本真希,向山雄人,山室誠,渡辺昭彦,瀬戸山修(2002). Evidence-based Medicine に則った がん疼痛治療ガイドライン,日本緩和医療学会「がん疼痛治療ガイドライン」作成委員会(編),真興交易医書出版部(PC)

伊藤美由紀,的場元弘,外須美夫(2001).E.モルヒネの副作用対策,わかるできるがんの症状マネジメントII,ターミナルケア10月増刊号,63-70(E-1)

木澤義之,吉津みさき,角田直枝(2002).第5章痛み以外の症状マネジメント3 消化器症状,悪心・嘔吐,NursingMook14 がん患者の症状マネジメント,田村恵子編,p106-109.(E-1)

Mercadante S, Casuccio A, Calderone L, (1999) Rapid switching from to methadone tin cancer patients with poor response to morphine. J Clinical Oncology 17 3307-3312 (E-3)

Meuser T, Pietruck C, Radbruch L, et al (2001) Symptoms during cancer pain treatment following WHO-guidelines: a longitudinal follow-up study of symptom prevalence, severity and etiology. Pain : 93 247-257 (E-1)

宮野早苗,小井戸啓一,中山綾乃,蔵品大,斉藤完治,加藤裕久,國枝卓(2003):特集モルヒネの副作用対策,嘔気・嘔吐,総合臨床,52(8),2410-2415.(E-3)

真野徹(2003). 特集モルヒネの副作用対策,眠気、ふらつき、めまい,総合臨床,52(8),p2424-2427(E-3).

岡田美賀子,梅田恵,桐山靖代(2002). 別冊ナーシング・トゥデイ⑬ナースによるナースのための最新がん患者のペインマネジメント—Evidence-based Nursing Practice の探求、日本看護協会出版会 (E-1)

佐伯俊成, 萬谷智之, 井上真一, 山脇成人 (2001) B. せん妄・混乱 ターミナルケア
11(Suppl. Oct.) 298-303 (E-3)

表圭一(1998).薬物療法, 花岡一雄(監),花岡一雄,並木昭義,小川節郎,有田英子,上西紀夫,大
内尉義(編) 日本医師会生涯教育シリーズ疼痛コントロールのABC, 医学書院(E-1)

平成 15 年度厚生科学研究費補助金 (医療技術評価総合研究事業)

オピオイドを使用したがん疼痛マネジメントにおける外来看護指針(案)

～非売品～

<作成者>

代表者	荒尾 晴恵 (兵庫県立看護大学)
主任研究者	内布 敦子 (兵庫県立看護大学)
	川崎 優子 (兵庫県立看護大学)
	大塚奈央子 (兵庫県立看護大学)
	滋野みゆき (兵庫県立看護大学)
	小迫富美恵 (横浜市立市民病院)
研究協力者	松本 仁美 (新日鐵広畑病院)